

2023年6月8日

課題名：注意欠如多動症（ADHD）の幼児期における言語発達の阻害要因

◆研究の目的と概要◆

当院では、幼児期から学童期に注意欠如多動症（ADHD）と診断された児について幼児期の言語発達の検査結果や生育歴、教育歴、既往歴、指導歴などを調べています。本研究では、注意欠如多動症（ADHD）児の幼児期における言語発達に関する要因を明らかにすることを目指し、今後のよりよい診療を行うことを目的としています。

◆対象となる患者さん◆

2015年4月から、2024年3月までの間に、倉敷中央病院リバーサイドおよび倉敷中央病院で注意欠如多動症（ADHD）であると診断された方。

◆研究に使用される情報・試料◆

各種検査の結果、在胎週数、出生時体重、精神疾患・内科疾患・神経疾患の有無、併存症の有無、養育上の特別な問題の有無、投薬の有無、初診時月齢、言語聴覚療法の開始時年齢、言語聴覚療法実施回数、両親・兄弟の人数、両親の外国人の有無、作業療法実施の有無、保育園・幼稚園・こども園の利用の有無、療育施設利用の有無

◆研究方法◆

本研究は過去の診療録（カルテ）等からの情報を利用します。

-
- * 研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる情報は利用しません。
 - * 本研究に関するお問い合わせや、カルテ情報の利用についてご了承いただけない場合、以下の問い合わせ先までメールでご連絡ください。

【問い合わせ先】

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院リバーサイド
リハビリテーション室 研究責任者 松尾 基史

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院
小児科 研究責任者 久保田 真通

E-mail： kenkyu★kchnet.or.jp（臨床研究センター）
（★を@に変換して使用してください）

この研究課題で利用する残余検体・診療情報等の利用については、医の倫理委員会によって「社会的に重要性が高い研究である」等の特段の理由が認められ、実施についての承認が得られています。

※【問い合わせ先】では、次の事項について受け付けています。

- 研究計画書および研究の方法に関する資料の閲覧（又は入手）ならびにその方法（他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。）
- 研究対象者の個人情報についての開示およびその手続
- 研究対象者の個人情報についての利用目的の通知
- 研究対象者の個人情報の開示、訂正等、利用停止等について、請求に応じられない場合にはその理由の説明